2024年7月24日現在

登録番号　第　24693　号

MIC ジベレリン粉末

特長：	●植物ホルモンの一種であるジベレリンを含有した植物成長調整剤です。 ●水溶性の粉末です。

有効成分	ジベレリン・・・3.1%	包装	(1.6g×4)×10×10 6.4g×10×10
性状	白色の顆粒状末で水に投入すると容易に溶け無色透明な溶液となる。	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	−

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】　　2024年7月24日付内容

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(ﾋﾑﾛｯﾄﾞｼｰﾄﾞﾚｽを除く2倍体米国系品種)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ100ppm 第2回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ75～100ppm	果房散布の場合は30～100L/10a	満開予定日約14日前(第1回目)及び満開約10日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬又は果房散布	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
ぶどう(ﾋﾑﾛｯﾄﾞｼｰﾄﾞﾚｽ)	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ100ppm	−	着粒後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ﾃﾞﾗｳｪｱ)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ100ppm 第2回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ75～100ppm	果房散布の場合は30～100L/10a	満開予定日約14日前(第1回目)及び満開約10日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬又は果房散布	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
				満開予定日18～14日前(第1回目)及び満開約10日後(第2回目)		第1回目:花房浸漬(ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ1～5ppm液に加用) 第2回目:果房浸漬又は果房散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(ｷｬﾝﾍﾞﾙｱｰﾘｰを除く2倍体米国系品種)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ50ppm	－	満開10～15日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ｷｬﾝﾍﾞﾙｱｰﾘｰ)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ50ppm	－	満開10～15日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計3回以内
	果房伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ3～5ppm	30～100 L/10a	満開予定日約20～30日前(展葉3～5枚時)	1回	花房散布	
ぶどう(2倍体欧州系品種)[無核栽培]	無種子化果粒肥大促進	第1回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ25ppm 第2回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ25ppm	－	満開時～満開3日後(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ25ppm	－	満開3～5日後(落花期)	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房浸漬(ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ10ppm液に加用)	
	果房伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ3～5ppm	30～100 L/10a	展葉3～5枚時	1回	花房散布	
ぶどう(ﾋﾛﾊﾝﾌﾞﾙｸﾞを除く2倍体欧州系品種)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ25ppm	－	満開10～20日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ﾋﾛﾊﾝﾌﾞﾙｸﾞ)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ50～100ppm	果房散布の場合は70～80 L/10a	満開10～15日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬又は果房散布	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ｷﾝｸﾞﾃﾞﾗ、ﾊﾆｰｼｰﾄﾞﾚｽ、BKｼｰﾄﾞﾚｽを除く3倍体品種)	着粒安定果粒肥大促進	第1回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ25～50ppm 第2回目ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ25～50ppm	－	満開時～満開3日後(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
	果房伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ3～5ppm	30～100 L/10a	展葉3～5枚時	1回	花房散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(ｷﾝｸﾞﾃﾞﾗ)	着粒安定 果粒肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	果房散布の場合は50～100 L/10a	満開時～満開3日後(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬又は果房散布	2回
ぶどう(BKｼｰﾄﾞﾚｽ)	着粒安定 果粒肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	－	満開時～満開3日後(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	－	満開3～6日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房又は果房浸漬	
ぶどう(ﾊﾆｰｼｰﾄﾞﾚｽ)	着粒安定 果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	－	満開3～6日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房又は果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ｻﾆｰﾙｰｼﾞｭを除く巨峰系4倍体品種)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 12.5～25ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	－	満開時～満開3日後(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm		満開3～5日後(落花期)	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房浸漬(ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ10ppm液に加用)	
	無種子化	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 12.5～25ppm		満開時～満開3日後		花房浸漬(満開10～15日後にﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝによる果粒肥大促進処理を行うこと。)	
	果房伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 3～5ppm	30～100 L/10a	展葉3～5枚時	1回	花房散布	
ぶどう(巨峰)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	－	満開10～20日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(ﾙﾋﾞｰﾛﾏﾝ)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	-	満開10～20日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ﾊﾆｰﾋﾞｰﾅｽ)[有核栽培]	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	-	満開10～20日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ｻﾆｰﾙｰｼﾞｭ)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 12.5～25ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	-	満開時～満開3日後(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬　第2回目:果房浸漬	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	-	満開3～5日後(落花期)	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房浸漬(ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 10ppm液に加用)	
	無種子化	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 12.5～25ppm	-	満開時～満開3日後		花房浸漬(満開10～15日後にﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝによる果粒肥大促進処理を行うこと。)	
	果房伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 3～5ppm	30～100 L/10a	展葉3～5枚時	1回	花房散布	
	着粒密度低減 果粒肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	-	満開予定日14～20日前(第1回目)及び満開10～15日後(第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬(ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 3ppm液に加用)、第2回目:果房浸漬	
ぶどう(高尾)	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	-	満開時～満開7日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房又は果房浸漬	1回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう(ふくしずく)	果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	-	満開時～満開7日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房又は果房浸漬	1回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(あづましずく)	果粒肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	－	満開時(第1回目) 満開4～13日後(第2回目)	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	果房浸漬	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
かんきつ(苗木、ただし、温州みかんを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	12～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～250 L/10a			立木全面散布又は枝別散布	
かんきつ(不知火、ぽんかん、かぼす、はるみ、ﾜｼﾝﾄﾝﾈｰﾌﾞﾙ、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ﾕｽﾞｷﾁ(無核)、温州みかん、きんかん、愛媛果試第28号、愛媛果試第48号、清見、ｶﾗを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後	1回	散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
不知火	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	3回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
はるみ	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	3回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5～1ppm	50～500L/10a	着色終期 但し､収穫7日前まで		果実散布	
愛媛果試第28号	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	3回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し､収穫7日前まで		果実散布	
すだち	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 5～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定7～30日前		果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
長門ﾕｽﾞｷﾁ(無核)	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	着果安定	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	50～100 L/10a	開花期～開花終期		花又は果実散布	
	果皮の緑色維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定14～30日前		果実散布	
ぽんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5ppm	50～500 L/10a	着色始期～4分着色期 但し、収穫21日前まで		果実散布	
平兵衛酢	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定14～30日前		果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
清見	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	3回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ1000～2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期但し､収穫7日前まで		果実散布	
かぼす	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定14～30日前		果実散布	
ﾜｼﾝﾄﾝﾈｰﾌﾞﾙ	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 500ppm	30～40 L/10a	満開10～20日後の幼果期		幼果に散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
きんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～250 L/10a			散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
	着果安定	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 300ppm	30～60 L/10a	一番花開花期		花に散布	
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	無種子化落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 300～500ppm	30～40 L/10a	満開7～10日後		果実散布	
愛媛果試第48号	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1 回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80 倍液に加用)	3 回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10 日後		散布	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期但し、収穫7日前まで		果実散布	

作物名	使用的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ｶﾗ	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	
温州みかん(苗木)	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～250 L/10a	11～1月	1回	立木全面散布又は枝別散布	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ1000～2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a			立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液又は展着剤に加用)	
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布	3回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				立木全面散布又は枝別散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ1000～2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 2.5ppm	200～700 L/10a	11～1月 但し、収穫後		立木全面散布又は枝別散布(ﾏｼﾝ油乳剤60～80倍液又は展着剤に加用)	
	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm				散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ1000～2000倍液に加用)	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 1～5ppm	100～400 L/10a	収穫予定日の3ヶ月前 但し、収穫45日前まで		果実散布(ﾌﾟﾛﾋﾄﾞﾛｼﾞｬｽﾓﾝ1000～2000倍液に加用)	
びわ(3倍体)	着果安定果実肥大促進	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 200ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 200ppm	－	満開予定日約7日前～満開時(第1回目)及び第1回目処理後35～60日(第2回目)	2回	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ20ppm液に加用、第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬	2回

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
すもも(貴陽)	着果安定	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100～200ppm	20～50 L/10a	満開 20～30 日後(第 1 回目) 満開 50～60 日後(第 2 回目)	2 回	果実散布	2 回
かき	落果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 12.5～200ppm	30～100 L/10a	満開 10 日後	1 回	幼果及びへたに散布	1 回
ｱｾﾛﾗ	着粒安定	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	100～400 L/10a	開花期	1 花当り 1 回	花に散布	1 花そう当り 3 回以内
野菜類	発芽促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～200ppm	－	は種前	1 回	種子浸漬	1 回
みつば(軟化栽培を除く)	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	50～100 L/10a	本葉 2～3 枚時(第 1 回目)とその 2 週間後(第 2 回目) 但し、収穫 14 日前まで	2 回	葉面散布	3 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
みつば(軟化栽培)	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 20～50ppm	50～100 L/10a	根株伏込時	1 回	根株上面に散布	2 回以内(種子への処理は 1 回以内、根株伏込時は 1 回以内)
ﾄﾏﾄ	空どう果防止	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	1 花房当り 5ml	開花時	1 花房当り 1 回	花房散布(ﾄﾏﾄ落果防止剤と併用)	種子への処理は 1 回、1 花房当り 1 回
なす	着果数増加	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10～50ppm	100～150 L/10a	開花時	1 回	葉面散布	2 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内)
さやいんげん(矮性(促成又は半促成栽培))	節間伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 5ppm	1 株当り 2ml	本葉 0.5～1.5 枚展開時	2 回以内	茎頂部散布	3 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
しそ(花穂)	穂の伸長促進 花径の伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 5ppm	50 L/10a	出穂期 但し、収穫 5 日前まで	2 回以内	茎葉散布	3 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
いちご(促成栽培)	着果数増加 熟期促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	1株当り 5ml	休眠に入る直前(冬場の低温期)	1株当り6回以内	茎葉全面散布	1株当り10回以内
いちご	果柄の伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10ppm	1株当り 5ml	頂花の出蕾直後～開花直前	1花房当り1回	株の中心部に散布	1株当り10回以内
いちご(親株床)	ﾗﾝﾅｰ発生促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	1株当り 10ml	採苗時ﾗﾝﾅｰ発生直前～発生初期	1株当り1回	茎葉散布	1株当り1回
ﾒﾛﾝ	着果促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 200ppm	1花当り 2～5ml	開花前日～翌日	1花当り1回	散布(4-CPA剤50倍液に加用)	種子への処理は1回、1花当り1回
うど(春うど)	休眠打破による生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	1株当り 20～25ml	伏込時	1回	根株散布	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	－	伏込時	1回	根株浸漬	
たらのき(促成栽培)	萌芽促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	100～200 ml/㎡	伏込時	1回	駒木散布	1回
ふき	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	50～300 L/10a	葉数3～4枚時(草丈10～30cm頃)	1回	全面散布	1回
ｾﾙﾘｰ	生育促進 肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	20～200 L/10a	収穫予定7～20日前	1回	葉面散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
畑わさび	花茎の抽出時期促進及び発生量増加	第1回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm 第2回目 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	1株当り 2ml	花芽分化後の10月下旬(第1回目)及び第1回目処理後約10日後の11月上旬(第2回目) 但し、収穫60日前まで	2回	株の中心部に散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	休眠打破による萌芽促進及び小粒いも または全粒種いもの増収	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 5～10ppm	－	植付前	1 回	30 秒間種いも浸漬	1 回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 5～10ppm	250～300 ml/種いも 10kg	植付前	1 回	種いも散布	
花き類(りんどうを除く)	発芽促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～200ppm	－	は種前	1 回	種子浸漬	1 回
りんどう	発芽促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～200ppm	－	は種前	1 回	種子浸漬	2 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内)
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	50～150 L/10a	定植直前または定植 1～5 週間後	1 回	茎葉散布	
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	1 株当り 5～10ml	収穫後	1 回	切株散布	
ｶﾗｰ(湿地栽培を除く)－	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	－	植付時	1 回	球根浸漬	2 回以内
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	50～150 L/10a	花茎伸長期	1 回	茎葉散布	
ﾄﾙｺｷﾞｷｮｳ	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	30～40 L/10a	生育期間中にﾛｾﾞｯﾄ化した時	1 回	茎葉散布	1 回
ｿﾘﾀﾞｺﾞ	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	1 株当り 1ml	活着直後又は萌芽期	1 回	茎葉散布	1 回
ｱｲﾘｽ	生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	－	植付時	1 回	球根浸漬	1 回
ｼｸﾗﾒﾝ	開花促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 1～5ppm	1 株当り 2～5ml	9 月中･下旬	1 回	花蕾を含む芽の中心部に散布	1 回
ﾌﾟﾘﾑﾗ(ﾏﾗｺｲﾃﾞｽ)	開花促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 10～20ppm	1 株当り 2～5ml	11 月上旬頃の花蕾出現直後	1 回	株の中心部に散布	1 回
ﾁｭｰﾘｯﾌﾟ(促成栽培)	開花促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 400ppm	1 球当り 1ml	草丈 7～20cm の時に 7 日間隔	2 回以内	筒状の葉の中心部に滴下	2 回以内
ｽﾊﾟﾃｨﾌｨﾗﾑ	開花促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 250～500ppm	30～40 L/10a	出荷予定期の 2～3 ｹ月前	1 回	茎葉散布	1 回

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
みやこわすれ	開花促進 草丈伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50～100ppm	1株当り 10～15ml	1月中旬の保温開始時から7～10日間隔	3回	葉面散布	3回以内
きく	開花促進 草丈伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～100ppm	50～100 L/10a	生育期	2回以内	茎葉散布	2回以内
しらん	開花促進 草丈伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 50ppm	－	植付時	1回	30分間株浸漬	1回
ｱｻﾞﾚｱ	開花促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 250～500ppm	30～40 L/10a	開花予定日約1ヶ月前	1回	茎葉散布	1回
さつき(施設栽培苗)	茎の伸長促進 花芽分化の抑制	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100～200ppm	50～100 L/10a	茎の伸長初期～伸長終期(開花盛期以降)1～2週間間隔	3回	頂芽に十分散布	3回以内
さくら(切り枝促成栽培)	休眠打破による生育促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	50～200 L/10a	休眠期	1回	切り枝全面散布	1回
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25～50ppm	－	休眠期	1回	切り枝浸漬	

農薬の使用上の注意事項――

〔1〕薬液の調製法及び取扱い上の注意

(1) 本剤は次表に従って所定量の水に希釈すれば希望濃度の水溶液を作ることが出来る。

1.6g 包1本（ジベレリン50mg 含有）当り水量

ジベレリン濃度(ppm)	1	3.3	5	10	12.5	25	50	75	100
水量(L)	50	15	10	5	4	2	1	0.67	0.5

6.4g 包1本（ジベレリン200mg 含有）当り水量

ジベレリン濃度(ppm)	1	3.3	5	10	12.5	25	50	75	100
水量(L)	200	60	40	20	16	8	4	2.67	2

10.6g 包1本（ジベレリン330mg 含有）当り水量

ジベレリン濃度(ppm)	1	3.3	5	10	12.5	25	50	75	100
水量(L)	330	100	66	33	26.4	13.2	6.6	4.4	3.3

(2) 薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用すること。また調製液はなるべく日陰に置くこと。

(3) ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。

(4) 本剤の使用に当たっては使用濃度、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

〔2〕使用上の注意

(1) ぶどう

1) ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、病害虫防除所等関係機関に確認してから使用すること。

2) 下記③の「ぶどうの品種による区分」に記載のない品種に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。

3) ぶどうの品種による区分

イ．２倍体米国系品種

「マスカット・ベリーA」「アーリースチューベン（バッファロー）」「旅路（紅塩谷）」

ロ．２倍体欧州系品種

「ロザリオ ビアンコ」「ロザキ」「瀬戸ジャイアンツ」「マリオ」「アリサ」「イタリア」「紫苑」「ルーベルマスカット」「ロザリオ ロッソ」「シャインマスカット」

ハ．３倍体品種

「サマーブラック」「美嶺」「ナガノパープル」「キングデラ」「ハニーシードレス」「BK シードレス」

ニ．巨峰系４倍体品種

「巨峰」「ピオーネ」「安芸クィーン」「翠峰」「サニールージュ」「藤稔」「高妻」「白峰」「ゴルビー」「多摩ゆたか」「紫玉」「黒王」「紅義」「シナノスマイル」「ハイベリー」「オーロラブラック」（「あづましずく」「ふくしずく」等の巨峰系４倍体シードレス品種は該当しない）

4) 降雨や、異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配の無い日を選んで処理すること。

5) 処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。なお、再処理に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

6) 本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用をさけること。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつけること。栽培管理については、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7) 本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多（過密着）による裂果発生のおそれがある。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行うこと。栽培管理については、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

8) 使用時期や使用濃度を誤ると、花振い、着粒過多（過密着）、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守すること。

9) 無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特にていねいに処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意すること。

10) 果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。

11) 本剤をぶどう（2 倍体米国系品種）に無種子化・果粒肥大促進の目的で使用する場合、第 2 回目処理を浸漬で行うときは 100ppm で処理すること。また、第 2 回目処理を散布で行うときは 75～100ppm（80～100L/10a）で処理する。散布で行う場合、散布処理は浸漬処理に比べ果粒肥大がやや劣ることがあるので、健全な樹に対して行い、薬液が果房に十分かかるように注意すること。

12) 本剤とストレプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができる。使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。また、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守すること。

13) 本剤をぶどう（デラウェア）［無核栽培］で使用する場合、満開予定日約 14 日前よりも早く処理するときは、花振いすることがあるのでホルクロルフェニュロン剤を加用すること。
また、ホルクロルフェニュロン剤を加用して処理する際は、ホルクロルフェニュロン剤の使用上の注意事項を厳守すること。

14) 本剤をぶどうの果房伸長促進の目的で使用する場合は、必ず花房だけを目がけて花房全体が十分濡れる程度に部分散布する。この時期に誤って大量の薬液が枝や葉にかかると、その翌年に発芽不良などの新梢の生育障害が起こるおそれがあるので、動力噴霧機やスピードスプレーヤなどによる全面散布は行わないこと。

15) ぶどう（あづましずく）に使用する場合、満開 4～13 日後の 1 回処理で十分な効果が得られるが、栽培方法や樹勢等によっては満開時と満開 4～13 日後の 2 回処理する必要があるので、使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

16) ぶどう（巨峰、ルビーロマン、ハニービーナス）〔有核栽培〕に果粒肥大促進の目的で使用する場合は、早めの処理により無核化率が増加する傾向があるので、有核粒の結実を確認してから処理すること。

⑵ かんきつ

＜落果防止＞

1）本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。

2）果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守ること。

＜花芽抑制による樹勢の維持＞

1）衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないこと。

2）低温が続いた年（極端な低温の年）または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけること。

3）散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。

4）ジベレリンの使用濃度を2.5ppm で使用するときは、マシン油乳剤60～80 倍液に加用する。

5）マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。

⑶ 温州みかん

＜花芽抑制による樹勢の維持＞

1）ジベレリンの濃度を2.5ppm で使用するときは、マシン油乳剤60~80 倍液または展着剤に加用する。

2）マシン油乳剤または展着剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤または展着剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。

＜浮皮軽減＞

1）本剤処理により、着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整すること。

使用濃度の目安

・ 貯蔵用または樹上完熟の温州みかんでは、概ね3.3～5ppm

・ 貯蔵しないあるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、概ね1～3.3ppm

2）本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⑷ ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。

1）異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がらないことがある。

2）通常幼果１果当り小型噴霧器で0.1～0.2mL 程度を噴霧する。

⑸ 長門ユズキチ（無核）

長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

⑹ 日向夏

日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

⑺ びわ（３倍体）

1）本剤処理しないとすべて落果するので必ず処理すること。

2）樹勢が弱いと果実肥大等の効果が出にくい場合があるので、樹勢は強めに維持すること。2 回目処理時に1 果そうに数果残しておき、果形の良否が判断できる時期に品質の良い果実を残して摘果し、適正着果量をこころがけること。

3）第1 回目の使用時期が早すぎると果梗部のネックが発生しやすく、第2 回目の使用時期が遅すぎたり、使用濃度が高い場合は果面の緑斑が残りやすい傾向があるので、使用時期、使用濃度を守ること。

⑻ かき

1）散布時期が早すぎると結実しても果実が小さくなるおそれがあるので、使用時期を誤らないこと。

2）本剤の散布により結実が過多となった場合は果実が小さくなる傾向があるので仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。

3）散布は幼果及びへたを対象にして十分かかるよう入念に行うこと。

4）品種により本剤に対する感受性が異なるので、下記に記載する品種以外に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。「富有、早秋、太秋、新秋、甘秋」

5）「中谷早生」では着色遅延のおそれがあるため、２５ｐｐｍ以下の濃度で使用すること。

⑼ すもも（貴陽）

1）授粉を行ってから、散布すること。

2）薬液が付きすぎないように、処理後、枝や棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。

3）第1 回目の処理が早すぎると棘状の枝の発生が見られ、遅すぎると着果安定効果が劣る傾向があるので、所定の使用時期に使用すること。

4）本剤の散布により結実が過多となった場合は、果実が小さくなる傾向があるので、予備摘果と仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。

(10) みつば（軟化栽培を除く）
葉の表裏に十分散布すること。高温長日条件下の散布は抽苔しやすくなるので、秋作を中心に処理した方がよい。
(11) みつば（軟化栽培）
灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。散布により発生茎数が多くなるので根株の伏込みは心持ち加減すること。
(12) トマト
落果防止剤を使用した後の本剤の散布は効果が若干劣るので、本剤を先に散布するか、又は混用して使用すること。
(13) いちご
＜着果数増加・熟期促進＞
1) 処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。
2) 本剤の散布適期は休眠に突入して矮化が始まる直前であり、休眠に入ってからでは効果が期待できないので、時期を失わないよう、いちごの生育状況に応じて散布時期を決めること。
又、第１回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をすること。
3) 過剰散布は根の発育抑制やくず果を増加させるので、使用濃度、散布液量を厳守すること。
＜果柄の伸長促進＞
処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。
(14) セルリー
定植後約１ヶ月以内に散布すると「す」が入りやすくなるので使用をさけること。
なお、スポット散布で使用する場合は１株当たりの使用液量が５～１０mL が適量である。
(15) 春うど
芽及び根株が十分したたる程度に散布又は瞬間浸漬すること。灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。伏込み後の目土の上からの散布は根株に吸収され難いのでさけること。
(16) ふき
収穫間近に散布すると効果が減少することがあるので、使用時期を誤らないこと。
(17) 畑わさび
1) 花芽分化前に処理しても効果が出にくいので、花芽分化開始を確認してから処理すること。
2) 全面散布は効果が劣るので株の中心部に散布し、効果を高めるため必ず２回処理すること。気温が 5℃以下では効果が劣るので 11 月上旬からビニール等で被覆し、保温管理すること。また、15℃以上になると花芽分化が抑制されるので、15℃以上にならないよう温度管理には十分注意すること。
(18) たらのき
1) 散布は散布むらがないよう噴口の小さい散布器を用いて入念に行うこと。
2) 薬液が芽に均一にかかるよう、駒木の高さと芽の向きを揃えておくこと。
(19) ばれいしょ
1) 種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるのでさけ、必ず種いもを切断せずに処理する。
2) 浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じるおそれがあるので所定の浸漬時間及び使用濃度を厳守する。
3) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させる。
4) 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行う。
5) 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しない。
6) 品種により本剤に対する感受性が異なるので、本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。
(20) 花き
1) 処理濃度、量、回数は必要最小限にとどめ、徒長や軟弱化を防ぐため栽培管理に十分注意すること。
2) 処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧すること。
3) チューリップ
イ．本剤のチューリップへの利用は促成栽培（促成栽培、半促成栽培）に使用する。
ロ．処理時期は草丈が 7～20 ㎝（適期：10～15 ㎝）の頃である。
ハ．ジベレリン溶液は筒状の葉の中心部に１回、又は２回（7 日おき）滴下する。滴下量が多くなると薬液があふれ、通常溜まる量が過剰分に引きずられて流出し、効果が不安定になるので注意する。1.0 ml の滴下であふれる場合は、保持される最大の量に止める。
ニ．滴下前に灌水をすませ、筒状の葉の中の水はあらかじめ取り除いておく。滴下後は２～３日灌水をひかえる。
ホ．品種により、感受性の差異がみられるので、感受性の強い品種（ウイリアムピット、ゴールデンハーベスト等）を選んで使用するのが有利である。

4) さつき
さつきの未開花苗に使用する場合は、茎の伸長状況を見ながら対象品種の成木の開花時期を参考にして、使用時期を決めること。
5) りんどう
イ．処理は葉が十分濡れる程度に散布すること。
ロ．使用時期の定植直前は苗姿３～４対葉期を目安にすること。
ハ．切株散布する場合は、翌年の萌芽に影響を与えないよう散布後は生育期間を十分に確保すること。
6) ソリダゴ
イ．高温期の処理では効果を示さないので、低温期（11～3 月頃）に処理すること。
ロ．処理により草丈および切り花重がやや低下することがある。
7) さくら(切り枝促成栽培)
休眠が深い時期の処理は効果が出にくいので、自発休眠の浅い時期に処理すること。

〔3〕使用上の注意
適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーー

⑴ 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法
農薬使用者に係る注意事項
1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
使用後は洗眼すること。
2) 使用の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。
3) 浸漬処理に使用する際は不浸透性手袋などを着用すること。

⑵ 使用に際して講ずべき被害防止方法
該当なし

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項ーー

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。